

平成31年(2019年)4月2日

れきみん

# 資料館だより

No. III-19

相生市立歴史民俗資料館

## 桜花爛漫 新年度事業スタート!

中央公園の散策や花見を兼ねて、「れきみん」を覗いてみませんか。

- ◇ 原始・古代〔考古資料〕コーナー(2階)の展示替えが完了しました。
- ◇ 『相生市史』をはじめ、近隣の「市史」「町史」等の開架を進めています。調べ事がございましたら、ご利用ください。
- ◇ 2019年度の事業内容については、『広報あいおい』3月号折込チラシならびに『れきみん資料館だより』III-18(ホームページにも掲載)をご覧ください。

### 〈資料紹介13〉新発見! 最古のペーロン写真

先月、川崎久令氏(那波大浜町在住)より、ペーロンの写真2点を寄贈していただきました。ともに縦23.5cm、横29.5cm(縁を含む)で、撮影年月日は記載されていません。1点(以下、Aとする)は当資料館1階に展示されている写真(これまで最古とされていた写真1925年頃の撮影か)と同じものでしたが、もう1点(以下、Bとする)は新発見の写真でした。



寄贈されたペーロン写真(B) 1923年(大正12)撮影カ  
後方中央が「網の浦船員倶楽部」

A・Bとも初代ペーロン艇で、旅館「水月本館」前で撮影された優勝記念写真と思われますが、背景が異なっています。南から撮影されたAは、右端に竹島（<sup>のしま</sup>籠嶋）が写り込んでいることから、那波から佐方・千尋方面をバックにしていることがわかります。

一方、Bは北から撮影され、左端に遠見山が写り込み、通称「不動山」「青木の鼻」がバックになっています。とりわけ注目されるのは、後方中央に1922年（大正11）12月に新築された「網の浦船員倶楽部」の建物（現在の青木鉄工の駐車場辺りに建てられていた）が写っていることです。

『播磨造船所50年史』には、1924年（大正13）5月末に網の浦海岸に高級船員の宿舎を建設したとの記載があり、倶楽部の全景写真が掲載されています。この写真を見ると、倶楽部本館の南方に高級船員の宿舎とみられる2階建ての建物3棟が写っていますが、写真Bでは平屋の建物しか確認できません。このことから、Bは1923年（大正12）（=初代ペーロン艇が建造され、初めて使用された年）に撮影された公算が高く、最古のペーロン写真といえそうです（相生のペーロン競漕は1922年（大正11）に始まり、翌年から初代ペーロン艇を使用）。

AとBを比較すると、船首側面の<sup>利</sup>のマークから同じペーロン艇で撮影されていることがわかります。しかし、撮影方向の違いに加えて、Aは乗組員（乗船者）が39名であるのに対し、Bは41名ようです。また、Bのペーロン艇には、Aには見られない吹流し<sup>ふきなが</sup>が取り付けられています。さらに、乗組員の背後に写っている人物（職場の上司・同僚ないし家族か）を見ると、Aがすべて洋装であるのに対し、Bでは大半が和装です。以上のことから判断すると、2枚の写真が撮影された時期は異なり、Bのほうが古いと考えるのが妥当でしょう。

加えて、もう一つ注目されるのは、船尾近くの側面に「利根組□□」（□□は判読できないが、「寄贈」の可能性あり）の文字が書かれていることです（他の場所にも文字が書かれているようであるが、判読できない）。『れきみん 資料館だより』Ⅲ-15で、<sup>山</sup>・<sup>大</sup>・<sup>利</sup>のマークが、初代ペーロン艇を建造・寄附した下請け業者の頭文字を表している可能性を想定しましたが、写真Bから読み取れた文字から確実なものとなりました。

写真からは、他にも多くの情報を読み取ることができ、相生ペーロンの歴史を明らかにしていく上で極めて重要な資料になるものと思われます。4月から当資料館1階で展示していますので、ぜひご覧ください。

〈参考文献〉

中濱久喜・橋本一彦・松本恵司 2018「新発見！ ペーロン競漕写真」『れきみん 資料館だより』Ⅲ-15（相生市立歴史民俗資料館）

森田穰平ほか1960『播磨造船所50年史』（株式会社 播磨造船所）

（中濱久喜・橋本一彦・松本恵司）

◇ 3月15日および19日に、西播朝鮮初中級学校中級部の生徒（59名）と先生（9名）が当資料館と「相生平和記念碑」「中央通りプラタナス並木」を訪れ、資料館職員の案内のもと、古代と近現代の朝日関係史について学びました。



◇ 団体・グループでの見学やフィールドワーク等の解説希望がございましたら、気軽にご相談ください。

西播朝鮮初中級学校中級部生徒の見学  
(2019.3.15)